古民家だより

No. 20
令和２年（2020 年）５月 29 日（金）
越谷市教育委員会　生涯学習課

瓦曽根溜井に水が満たされ、そこから用水路に通水されて、大型連休の間に田植えが始まりました。毎年の風景ですが、今年は少し違った心持で眺めた方もおられることでしょう。近世のこの辺りの絵図には、土の堰と石の堰とが描かれています。昭和 40 年頃までは石堰の名残がありました。

越谷発　変動期の文芸誌【その2】

古民家だよりＮｏ．１９に引き続き、大正～昭和初期に市域で編集・発行された文芸誌についてお届けします。

６　病

戦前、死を覚悟しなければならなかった病気は結核、次いで腸チフスやコレラ、天然痘などでした。文芸誌に寄稿された作品の中にも、これらの病気に関するものもあります。まずは医師と患者家族の作品です。（「曠野」より）

★一人死に一人癒えて一人臥す腸チブス患者　今日も診回る　（昭和６年２月号）
★クレゾールの匂いひきらいつ消毒衣の吾を遠ざく街の人々　（　同上　）
★チブスてふ（ちょう＝と言う）病にかゝりし姉上を看護（みとり）もできず悲しと思う（隔離の為）（昭和８年５月号）

「曠野」同人の中心的な人だったＮさんは 10 年ほど病の床にありましたが、数多くの歌を詠んでいます。

★今年こそ癒（い）ゆると待ちし吾が願い　空しくなりて年ゆかんとす　（昭和５年 12 月号）
★蛙（かわず）鳴く声をし聞けばすこやかに田を鋤（す）く人の幸をし思う　（昭和６年６月号）
★長病のわれと暮らせばおのづから静けさ好む子となりぬらし　（昭和６年９月号）

「静けさ好む子」とは娘のＳさんです。この頃Ｓさんは高等女学校生徒で、次の歌を詠んでいます。

★裏畑ゆ　茄子（なす）をもぎ来て病む母に汁を作ると厨（くりや）にきざむ　（昭和５年９月号）
★病む母の衣（ころもが）更えすを手伝えば足爪（つめ）のび給うが目にたちにけり
（昭和６年２月号）

ところがＳさんは女学校卒業の翌年８月、病で急逝してしまいました。母のＮさんは年の暮れに次のように詠みました。

★遺（のこ）りたる時計のねぢを巻くたびに亡き子の腕の細りを思う　（昭和７年 12 月号）

「曠野」表紙　昭和７年７月号

７　当時の世の中

大正～昭和初期の世相を活写した歌も多くあります。「曠野」より以下にご紹介します。後掲の年表と併せてご覧下さい。不景気が深刻になっていく中、テロ事件も何度か起こり世界の争乱へと繋がっていきました。

戦死者の村葬（出羽村）

★村人の米価騰（あが）れる噂せど売るべき米のはや家になし
（昭和７年３月号）
★肥料代に足らぬ市価をもあきらめて葱（ねぎ）売りに行く心許（こころもと）なさ
（昭和７年４月号）
★町民のとげとげしき折つぎつぎに町民大会ひらかれにけり
（善太郎・昭和５年９月号）
★狙撃されて犬養危篤という号外を見知らぬ人に借りて吾が読む
（昭和７年７月号）
★身をひそめ小高き丘による兵の射撃の姿勢真に迫れる　（昭和６年４月号）
★果てしなきみ空仰げば遠き地の夫（つま）の面影思ばるるかな（夫を満州に送りて）　（昭和６年７月号）

このように閉塞的で不安増大の中、日々の生活や自己、家族、友人を見つめ、自分たちの良心（純文学短歌）を保とうとする作品も詠まれました。

★時局は芸術をかくも堕落せし事実を見つつ思うことあり　（昭和７年６月号）
★パンのため世人（ひと）の娯楽にこびると云うわれらのこれが本意にあらず　（昭和８年２月号）

大正～昭和初期の世の中

西暦	和暦	市域の動き	社会全体の動き
1913	大正2	越ヶ谷町・大沢町に電灯がつく	
1914	大正3	乗合馬車開通(越ヶ谷・浦和間)	第一次大戦開始
1915	大正4	大相模、蒲生、出羽村に電灯がつく	
1916	大正5		吉野作蔵「民本主義」主張
1917	大正6		ロシア革命
1918	大正7		大戦終結　シベリア出兵　スペイン風邪(～'20)　原敬内閣成立　「赤い鳥」創刊
1919	大正8	新方村に電灯がつく	ベルサイユ条約
1920	大正9	越ヶ谷駅新設、旧越ヶ谷駅は武州大沢駅に	戦後恐慌
1921	大正10	越ヶ谷町で小作争議　川柳、増林電灯つく	原敬暗殺
1922	大正11	桜井村に電灯がつく	
1923	大正12	大袋村に電灯がつく	関東大震災
1924	大正13	**「明詩」創刊**	
1925	大正14	越ヶ谷ラジオ同好会発足	普通選挙法と治安維持法成立 ラジオ放送開始
1926	大正15 昭和1	荻島村に電灯がつく	
1927	昭和2		金融恐慌始まる
1928	昭和3		
1929	昭和4	**「新時代」創刊**	世界恐慌起こる
1930	昭和5	**「曠野」創刊**	ロンドン軍縮会議
1931	昭和6	**善太郎結婚(25歳)** 県立越ヶ谷高等女学校火災	満州事変
1932	昭和7		5.15事件
1933	昭和8		国際連盟脱退　ナチス政権成立
1934	昭和9		
1935	昭和10	越ヶ谷順正会発足	
1936	昭和11		2.26事件　「赤い鳥」廃刊
1937	昭和12		日中戦争開始　「君たちはどう生きるか」出版
1938	昭和13		国家総動員法成立
1939	昭和14		第二次大戦開始
1940	昭和15		
1941	昭和16		太平洋戦争開始

スペイン風邪

当時猛威をふるったインフルエンザで、第一次大戦当時、その情報がスペインから発信されたのでこの名があります。死者は大戦の犠牲者を上回ったという記録もあります。越谷市指定文化財である「越巻中新田の産社祭礼帳」(大正七年度)には『コノ病魔ノ災ヲ受ケ殪レタルモノ甚ダ多シ』とあります。

「赤い鳥」

鈴木三重吉が主宰し、北原白秋などが寄稿し、さらに全国から少年少女の創作文学作品投稿によって編集された文芸誌。金子みすゞもこの文芸誌によって見出されました。

恐　慌

七、八月頃暑烈シク且ツ加フルニ降雨ナク虫害旱害甚大ニシテ、(中略)米価ハ漸落ヲ続ケ、(中略)土木其他工事ハ程ド中止ノ有様ニテ、働クニ仕事ナク、食スルニ食料ナキ未曽有ノ不景気ハ我ガ地方ニ脅威シ来タリ。中新田氏子中ハ(中略)不景気退散ヲ祈願セリ。
(越谷市指定文化財「越巻中新田の産社祭礼帳」昭和四年度　より)

8　今の世に

前号と今号でご紹介した90年前の先人たちの行った活動は、自己や家族、世の中と誠実に向き合ったものでした。今、世界はいくつもの大きな問題に直面しています。こうした折、先人たちの作品は私たちに温もりや勇気、示唆を与えてくれるかもしれません。

日本のある心療内科医師は「閉塞感や不安から気持ちが内向きになったりトゲトゲしくなったりするが、その気持ちを周囲の人と共有する機会が必要だ」と述べ、ドイツの文化相は「芸術を行う人は必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ。特に今は」と語っています。

皆様のご健康をお祈りしています。